

Retrospective evaluation of slim fully covered self-expandable metallic stent for unresectable malignant hilar biliary obstruction

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 翔 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002944

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2629 号

Retrospective evaluation of slim fully covered self-expandable metallic stent for unresectable malignant hilar biliary obstruction

切除不能悪性肝門部胆道閉塞に対する slim fully covered self-expandable metallic stent の後方視的評価

高橋 翔 (たかはし しょう)

博士 (医学)

論文内容の要旨

本研究は切除不能悪性肝門部胆道閉塞に対する slim fully covered self-expandable metallic stent (SFCSEMS)の安全性と有用性を後方視的に検証したものである。切除不能悪性肝門部胆道閉塞では狭窄の程度や場所の特定が難しく、複数ドレナージが必要であることから、有効なドレナージを得るのは容易ではない。近年、化学療法の発達により、各癌種での全生存期間が延長し、ステント閉塞後の再治療や化学療法著効時の手術まで考える必要が生じている。我々は6mm径と通常より細いSFCSEMSであれば、腫瘍浸潤を防ぎ、分枝を塞ぐことによる偶発症を抑えつつ、また抜去が可能であるため再治療が容易と考えた。2016年12月～2021年9月の間に切除不能悪性肝門部胆管閉塞に対してSFCSEMSをside by side法で留置した54例を後方視的に解析し、技術的成功率、臨床的成功率、Recurrent biliary obstruction(RBO)率、Time to RBO(TRBO)、偶発症率を解析した。男性30例、女性24例、平均年齢68.3歳であった。ドレナージは2枝35例、3枝19例であり、技術的成功率は100%、臨床的成功率は92.5%であった。TRBOと全生存期間の中央値はそれぞれ181日と117日であった。19例でRBOを認め、全て抜去に成功した。偶発症は6例(11.1%)に認め、区域性胆管炎の1例と軽症膵炎の2例でSFCSEMSを抜去し、軽症膵炎2例と胆嚢炎1例は保存的治療で改善した。RBOを来した19例中6例でSFCSEMSが再挿入され、11例でプラスチックステント、1例で他のSEMS、1例でEUS-HGSに変更された。2ndステントの有用性を解析すると、RBOを来したのがSFCSEMS群で16.7%(1/6)、PS群で81.8%(9/11)であり、SFCSEMS群でRBOが有意に少なく($p=0.036$)、TRBOはSFCSEMS群が長くなっていた(undefined vs 86日; $p=0.062$)。

以上のように切除不能悪性肝門部胆道閉塞に対するSFCSEMSの留置は安全かつ有用であった。また2ndステントとしてもSFCSEMSは有用であった。これまでの報告は少数例であり、本研究は大規模症例を検討した報告である。